

日本における日本語教師養成の文法、表記、語彙の講義の変遷について

Changes in grammar, notation, and vocabulary lectures for

Japanese language teacher training in Japan

清水 泰生(同志社大学)

Shimizu Yasuo (Doshisha University)

1. はじめに

1980年後半、日本で日本語教師養成の整備が始まり、日本語教育能力検定試験も行われるようになった。そして、2003年その教育科目内容等が改定され2017年文化庁が、日本語教師養成機関¹を審査、2019年に「日本語教育の推進に関する法律(令和元年法律第48号)が施行され、現在に至っている。本発表で、日本での日本語教師養成の理論科目の1980年代以前からずっと重点科目として考えられている文法、表記、語彙の授業で何がか変わったのか。変わったとすれば、なぜそうなったのか。そして、果たしてそれでいいのかを文化庁等の資料、教師養成講座テキスト、学会の研究発表等を基に考えた。なお、この日本語教師養成は日本国内の機関で大学、大学等機関よりも民間機関を中心に考察したものである。

2. 高等教育機関と民間の日本語教育機関

国内の大学を中心とした高等教育機関の教師養成は、文化庁に日本語教育研修の届出をする必要がない。だから、教師の専門分野に重きを置き、教師の裁量が比較的あると言える。一方、民間の養成機関は、日本語教育能力試験の出題範囲や、文化庁の申請(届出)にのって教授内容を進めることが多く、民間の機関は市販のテキストを中心に進められることも多いと言える。そして、『日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版』で、大学主専攻、副専攻、民間によってモデルケースが別々に示されている。本論では民間の養成講座を中心に考察した。

3. 日本語教育能力試験、教師養成講座の変遷

2000年報告書「日本語教育のための教師養成について」が出され、2003年で日本語教育能力試験が変わって日本語教師養成講座の内容が大きく変わった。2003年

¹ 法務省告示校日本語教育機関で教えるのがメインである。

日本語教育能力試験出題範囲改正で言語技能中心から言語と社会、言語習得発達、異文化教育、異文化交流等が追加された。

それから 2017 年文化庁に日本語教師養成講座の民間の機関が届けることになってさらに変わったと言える。

それまでは、日本語教師養成講座の受講時間 420 時間は規定され、その教授内容も提示されていたが、実際のところ教授内容はそれぞれの養成講座の教育機関の採量が多かったかと思う。それが、養成講座を開講するに当たって教授内容を文化庁に提出、審査（受理、不受理）を受けることになった。よく言えば、教育機関はバランスのとれた教育内容を与えるようになる。悪く言えば個性がない金太郎飴教師を多く育ててしまう恐れがある。

4. テキストについて

考察のテキストは日本語教師養成講座に通う受講生等が使う市販のテキスト、および日本語教育能力検定試験対策用のテキスト（問題集を除く）である。テキストについては最後のところに示してある。

5. 文法について

2003 年よりも以降の日本語教師を目指す人の対象のテキストは、それ以前のテキスト（80 年代、90 年代）とくらべて、文法に関しては、詳細な点では、多少なりとも改定があったが、取り上げる分量等、あまり変化がなかった。ただ、最近、日本語教育文法という名称が言われるようになり、日本語学的な文法項目、内容には時間をかけず（紹介程度）、教育の現場で使う内容が重視される傾向にある。（なお、日本語教育学会など日本語教育に関する学会、研究会とも日本語学的な文法の研究発表も少なかったようである）

例えば、措定文、指定文、「象は鼻が長い」、「広島はかきが本場だ」などの文は、どちらかという教育現場で使われるというよりは学問的な日本語学的な文法なので、最近は軽く触れる程度ではないかと言える。『日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド 日本語教育能力検定試験学習書』（ヒューマンアカデミー）では 4 版までは、指定文、措定文、ウナギ文は紹介されていたが、5 版ではなくなっていた。

また、日本語教育能力検定試験も教育現場というよりは学問としての文法事項が出されにくくなったとも言える。そのことについては日本語教育能力検定試験公開の過去問、問題集を基に別の稿で言及したい。

6. IC 分析、生成文法について

2003年以前のテキストは、IC分析、生成文法の句構造を取り上げていたが、日本語教育の多様化により、あまり取り上げられなくなった。例えば『日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド 日本語教育能力検定試験学習書』（ヒューマンアカデミー）第3版まで取り上げていたが第4版以降取り上げなくなった。

チョムスキーの生得説、言語獲得装置等、言語習得の分野で必ず取り上げなければならない項目は、生成文法の句構造について言及しなければ、チョムスキーの言語習得の考え方が分かりにくいのではないか、時間的に授業に取り入れるのはきついかもしれないが、オンデマンド等で提供すべきではなかろうか。

それから、チョムスキーの生成文法理論は、その時期によって、様相がまったく異なっていて、主な歴史的順序を挙げると以下のようなになる。

Standard Theory:ST(1957-1965)・Extended Standard Theory:EST(1965-1973)
 ・Revised Extended Standard Theory:REST(1973-1976)・Government and Binding:GB/Principles and Parameters Theory:P&P(1981-1990)・Minimalist Program:MP(1990-present)

当然のことであるが日本語教師養成講座は、日本語教師を目指す人が対象なので生成文法理論を深く紹介せずに言語習得に関するところのみを紹介することと生成文法理論が絶えず変わってきていることのみを紹介する程度が望ましいのであろう。

7. 日本語史と関連のある文法

文法史と言われるものは、日本語史の分野で行われていた。動詞の二段活用の一段化、音便の発生、時代による動詞の活用の種類変化などが、『分野別徹底解説による日本語教育能力検定試験 傾向と対策 音声学 語彙 表記 国語学史 日本語史 日本事情』（バベル・プレス）等で詳細に取り上げられていたが、最近ではテキスト等でほとんど見かけなくなった。『日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド 日本語教育能力検定試験学習書』（ヒューマンアカデミー）でも第4版からは全く見かけなくなった。ただ、それらは、詳細に取り上げなくても文法、音声等が変化していることを紹介しておくことは、言葉は生き物であることを示すうえで大切である。

8. 語彙について

語構成、語種、計量語彙、語の意味等が語彙の基本項目であり、2003年以降も、内容が少し浅くなったと思われるが基本項目は、どのテキストもおさえている。ただ、ことわざ、四字熟語は、2003年以前からテキストで『日本語教育事典』(1987)『分野別徹底解説による日本語教育能力検定試験 傾向と対策 音声学語彙 表記 国語学史 日本語史 日本事情』(バベル・プレス)以外は、さほど取り上げていなかった。最近は、さらに取り上げていない。辞書に関しても最近のテキストは、あまり取り上げていない。辞書のオンライン化、辞書のツールの変化が急速に進んでその結果、(活字媒体である)日本語教師養成のテキストが追い付いていないからであろう。

なお、ことわざであるが日本語教育学会大会の2010年から2020年までの学会大会でことわざの研究発表が1件しかない。日本語能力試験で2010年～2020年まで出題されていないようなので、ことわざは日本語教育においては、重要度が低い。しかし、ことわざ、四字熟語ともそのことわざを使っている国、地域の言語の文化と密接な関係があるので、外国語教育の中で取り上げることは意義のあることであろう。

9. 文字表記について

送り仮名、仮名遣い、ローマ字については2003年以降も行われているが、概略的な紹介になってきている。そして、公用文の書き方、漢字の部首についてはテキストで取り上げられなくなった。公用文の書き方は大切だと思うので、テキストには内容は取り上げられなくても、自分で調べられるように(自律学習ができるように)、資料のHP等のアクセス方法、収集方法は示すべきである。なお漢字は2003年以降に関しては 教え方とそれに関わる項目が多くなっている。(漢字の研究発表は、国内外の学会、研究会でやや増えているように感じている。客観的な考察は次回の課題としたい)

10. 新分野について

言語と社会、言語習得発達、異文化教育、異文化交流の分野以外にも、脳科学、栄養学、睡眠学、生理学、医学の分野が日本語教育に大いに関わっているとと言える。これら分野が日本講師養成科目に入ると学習項目はさらに多岐にわたり、時間等の関係で、取り上げられない可能性が出てくるかもしれない。そうなったときオンデマンド教材等が重要な役割になるであろう。

11. HP のサイトと養成講座の内容について

ICT が盛んになって各分野の HP、動画が多くなった。例えば、国立国語研究所の HP で言語学シリーズ的な動画公開されている²。また、文化庁では地域の日本語教育、子どもの日本教育等の資料³等がダウンロードできるようになった。これらの資料は公の機関、研究者、一般市民などが作成で玉石混交であり、閲覧する人のリテラシーが必要となってくる。ただ、養成の受講生がこれらのサイトの是非を判断することが難しいので、養成講座の教師が上手く助言することが大切になってくる。また、これらのサイトを整理し何らかの形で公表しなければならないであろう。

12. まとめ、今後の課題

日本語教育の多様化にともなって 2003 年を境に科目、内容も大きく変わった。その結果、語彙、文字表記が、手薄になっているところもある。特に表記では、公用文等の表記等が不十分である。語彙の場合、ことわざ、慣用句、連語等が不十分ではないだろうか。物理的な問題もあるのでこれからの科目はオンデマンド等の講義で補う必要があるだろう。そして、日本語教育能力試験の再改訂、日本語教師の国家資格化等により日本語学的な文法項目等の一部削除されることが予想される。しかし、日本の文化、言語文化を知る上でことわざ、慣用句等の分野は、全く無視することはできない。今回、日本国内の教師養成を中心に述べたが、海外の場合はどうであろうか。カナダ等で教える場合、日本で教えるよりも多言語教育や継承語教育が注目され、言語習得発達等の深い知識が必要になってくるので、カナダ等の教師の卵に向けた教育は、物理的な関係で、ことわざなどの語彙、公文書の書き方などの文字表記等の内容はオンデマンド等に頼らざるをえない。そのことについて次回詳細に述べたいと思う。

² 動画教材：言語学レクチャーシリーズ（試験版）

<https://www.ninjal.ac.jp/education/videolecture/>（2022 年 9 月 1 日採集）

³ 文化庁 日本語教育 https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/index.html
（2022 年 9 月 1 日採集）参照

「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業

ICT を活用した「生活者としての外国人」のための日本語学習コンテンツの開発・提供

https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/ICT_kaihatsuteikyo/index.html
（2022 年 9 月 1 日採集）参照

参考文献

(教師養成講座のテキストを除く)

岡本佐智子 (2005) 「日本語教師養成の現状と課題」『北海道文教大学 論集』6

阪田雪子 (1987) 「大学における日本語教員の養成について」『文部時報』第1323号

清水泰生 (2015) 「他分野と日本語教育— 国語科教育、幼児教育、スポーツ、医療分野等の他分野のよさを取り入れて—」『日本語教育方法研究会誌』22巻2号

館岡洋子編(2021)『日本語教師の専門性を考える』ココ出版

日本語教育学会編(1987)『日本語教育事典』大修館

馬場良二 (2020) 「求められる日本語教育人材と 文学部日本語教師養成課程について」『熊本県立大学文学部紀要 第26巻』

平畑 奈美 (2009) 「多様化への対応」に向けた日本語教師養成の課題 —日本の日本語教師養成課程現状分析から— 『JOURNAL CAJLE, VOL. 10』

横溝 紳一郎 (2021) 『日本語教師教育学』くろしお出版

(サイトの URL)

浅川伸一 生成文法

<https://www.cis.twcu.ac.jp/~asakawa/Waseda2009/GenerativeGrammar.pdf> (2022年9月1日採集)

「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
ICTを活用した「生活者としての外国人」のための日本語学習コンテンツの開発・提供

https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/ICT_kaihatsuteikyo/index.html

(2022年9月1日採集)参照

動画教材 : 言語学レクチャーシリーズ (試験版)

<https://www.ninjal.ac.jp/education/videolecture/> (2022年9月1日採集)

日本語教員養成研修の届出について

https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/kyoin_kenshu/index.html (2022年9月1日採集)

文化庁 日本語教育

https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/index.html

(2022年9月1日採集)参照

(考察の日本語教師養成講座対象のテキスト)

ヒューマンアカデミー 『日本語教育教科書 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド』第1巻～第5巻

日本語教師トレーニングマニュアル②日本語文法整理読本 バベル・プレス

日本語教師トレーニングマニュアル③よくわかる言語学入門 バベル・プレス

日本語教師トレーニングマニュアル⑥日本語の文字・表記入門 バベル・プレス

『分野別徹底解説による日本語教育能力検定試験 傾向と対策 日本語学概論・日本語文法・談話・文体』 アークアカデミー

『分野別徹底解説による日本語教育能力検定試験 傾向と対策 音声学 語彙 表記 国語学史 日本語史 日本事情』 アークアカデミー

国際交流基金編 日本語教授法シリーズ3 文字・語彙を教える ひつじ書房

国際交流基金編 日本語教授法シリーズ4 文法を教える ひつじ書房

やさしい日本語指導4 文法／文体 凡人社

やさしい日本語指導5 音韻／音声 凡人社

やさしい日本語指導6 語彙・意味 改訂版 凡人社

やさしい日本語指導7 文字・表記 改訂版 凡人社

やさしい日本語指導8 教室活動 凡人社

やさしい日本語指導9 言語学 凡人社

「日本語教育 よくわかる」シリーズ 文法 アルク

「日本語教育 よくわかる」シリーズ 語彙アルク

『よくわかる文法日本語教育能力検定試験対応 日本語教師・分野別マスターシリーズ』 アルク

『よくわかる言語学日本語教育能力検定試験対応 日本語教師・分野別マスターシリーズ』 アルク

『よくわかる語彙日本語教育能力検定試験対応 日本語教師・分野別マスターシリーズ』 アルク

『よくわかる日本語史日本語教育能力検定試験対応 日本語教師・分野別マスターシリーズ』 アルク